

新しい環境で、 良き伝統を未来へ繋ぎます

鹿児島聾学校 P.T.A会長 田淵 千春

はじめに

本校は、明治36年に創立され、今年で115年を迎える県内で唯一の聾学校です。

現在、幼稚部から高等部まで県内各地より68名の幼児・児童・生徒が在籍して学習に励んでいます。

新校舎より導入した二つの設備

まず一つは、ロジャー

次に、「みえる校内放送」という設備を導入しました。この設備は、非常時（火災・地震・不審者侵入など）に、音声での放送が聴き取りにくい子どもたちが、テレビ画面に映し出される情報を

見据えた視察先を選定し、毎回充実しています。

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

平成27年度に鹿児島市草牟田から同市下伊敷に移転しました。聴覚障害のある子どもたちが学びやすく、過ごしやすく、情報を得やすい学校になりました。

まず一つは、ロジャーという補聴器援助システムを導入しています。送信機から、補聴器や人工内耳に取り付けた受信機に音声を送り、聞き取りを改善し音をダイレクトに届けます。そのため補聴器が騒音を拾ってしまう騒がしい場所や、反響の多い場所、話し手との距離がある場所で役立ちます。教室だけでなく、体育館等でも使えます。個人差はありますが、使

次に、「みえる校内放送」という設備を導入しました。この設備は、非常時（火災・地震・不審者侵入など）に、音声での放送が聴き取りにくい子どもたちが、テレビ画面に映し出される情報を

見据えた視察先を選定し、毎回充実しています。

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

本校P.T.Aは、保護者の居住地が広範囲に及ぶため活動は難しい状況にあります。しかし、先生

方にご協力いただき日程を調整し、今年度の総会

用いている子どもたちから、「先生の声が近くで聴こえるから、話していることが分かりやすい」といった声も多く聞かれます。

また、1月には乳幼児教育相談に通う保護者と在校生の保護者との交流を行い、同じ聴覚障害児をもつ親として子育ての情報交換や悩みを話せる機会も作っています。

さらに、聾学校ならではの研修として、月に2回保護者の手話勉強会を行っています。講師を聴覚障害者の先輩にお願いし、保護者の中にも聴覚障害者の方がいるので、時にはその方をお願い

これら以外にも、玉江校区文化祭への出演、草牟田小学校とのミニバレーボール大会への参加など地域の方と楽しく交流しています。

私が一番好きで誇れるところは、聾学校の子どもたちは、幼児から思春期や反抗期を迎えた中高生までよく目を見て

話をし、よく聴くところです。そんな聾学校にぜひおいでください。9月は運動会、11月には文化祭とバザーがあります。がんばる子どもたち、保護者、先生方を応援してください。



新しい校舎

このような設備・システムを備え全国でも先進的な環境となりました。四つのP.T.A専門部

総務部の主な活動は、P.T.Aバザーの運営です。本校バザーの特徴として、卒業生が県内外からこの日のために集まり同窓会のような役割があることです。保護者が中心となって行いますが、外部出店には卒業生も協力し、少ない人数ながら盛大に行われます。また、バザーを通じて他学部の保護者との情報交換や先輩方の体験談等を聞く良い機会となっています。

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を

また、年1回の研修視察を実施しています。アンケート結果から将来を



移動母子教室